

令和7年度 社会福祉法人魚沼福祉会 経営事業計画

1. はじめに

2024年は世界的に選挙イヤーとなり、日本をはじめとする政権与党に非常に厳しい結果となった。特にアメリカでは前大統領が返り咲き、2025年は世界各国の経済に大きな影響を与えるだろうと予想されている。

国内においても、現在の政府は非常に厳しい舵取りを強いられている。所得税の壁引き上げの検討で働き控えを解消しようとしているが、人材確保については全業種で厳しい状況は変わっていない。一部企業の大卒初任給引き上げのニュースばかり取り上げられているが、中小企業及び福祉業界では、初任給引き上げもままならず、人材難はより一層加速する勢いである。

福祉分野では、人件費及び物価高騰による経営悪化と人材確保ができず倒産及び休廃止が一層進み、2024年は過去最高の件数となった。2025年には更なる件数増となる事が予想されている。このような状況でも介護報酬については、即座に見直されることも無く、現在検討中とされており次回2028年までどう持ちこたえるかも課題となっている。

市内においても介護事業所の休廃止が続いている。2期目となる現市長へは、介護人材確保における夜勤手当、資格取得等への補助金制度の継続を要望しているが、その他にも更なる支援策を検討しているとの話もあり期待するところである。

法人においては、令和6年度に技能実習生及び特定技能外国人を採用、現在2施設で5名が働いている。しかし、人材不足は解消されず、さらに職員の年齢も高くなり、令和7年度末には専門職の人材不足により事業運営が非常に厳しい状況となる事が予想されるため、次の通り今年度の目標を定める。

- 1) 人材の確保・・・外国人材の更なる採用と魚沼市にも協力を願い専門職の確保
- 2) 施設老朽化への対応・・・施設建て替え計画の検討と事業の再編計画の検討
- 3) 法人経営の安定化を図る・コスト削減（法人全体での契約の検討）と中長期計画策定

上記を中心とし、法人の進むべき方向性を示していくとともにコンサルティングを活用し安定した経営を目指す。

令和7年度スローガン

～エッセンシャルワーカーとしての仕事に誇りを持ち、信頼される仕事をしよう～

※エッセンシャルワーカーとは、「生活必須職従事者」

⇒医療、福祉、教育、公務員、運送、小売業者、金融、インフラ事業者など日常生活を維持する上に必要不可欠な仕事に従事する人を指すが、新型コロナウイルス感染下では、特に医療従事者、福祉従事者がエッセンシャルワーカーとして広く周知された。

2. 基本理念・基本方針

[I 魚沼福祉会の基本理念]

魚沼福祉会は、人の尊厳を貴び、共に明るく豊かな時間を創造し、かけがえのない命の輝きを守ります。

[II 魚沼福祉会の基本方針]

1. 私たちは、個人の尊厳を守り、個人情報を保護し、安心して安全な環境を提供します。
2. 私たちは、真心を込め、納得のできる福祉サービスを、笑顔で提供いたします。
3. 私たちは、法令を遵守し、情報開示による経営の透明性を図り、説明責任を果たします。
4. 私たちは、何方とも対等に、等しく対応します。
5. 私たちは、常に人格を磨き、知識と技術の向上に努めます。

3. 重点課題と取組目標

課題1 人財の確保と育成

目標1：専門職の確保と新人教育の見直し

内容：専門職確保のために魚沼市にも協力を願ひ、広報及び採用について検討する。また、介護職については、外国人人材の採用継続と、法人独自の奨学金制度の検討を行う

- ・時代に合わせた広報（魅力発信）
- ・教育方法（新人研修のプログラム化）
- ・専門学校と協力し奨学金制度の検討
- ・家庭と仕事の両立支援
- ・キャリアパス制度の明確化（資格取得と昇給）

目標2 サービス品質の確保（信頼されるサービス）

内容：各職種職域による基礎技術の向上、対人援助の基礎を主眼に個別援助を基本とし支援を行う

- ・食事・入浴・排泄の3大ケアを充実
- ・栄養ケアに基づいた美味しい食事
- ・嘱託医と連携した健康管理
- ・リハビリ実施による心身機能の維持向上
- ・認知症介護の実践
- ・利用者、入所者、家族に信頼される仕事
- ・研修参加率の向上と賞与への評価検討
- ・異動によるマンネリ防止と職員のスキルアップ

目標3：生産性向上について研究を行う

内容：生産性向上のための委員会の設置義務化に対応するため検討、研究を行う

- ・利用者の安全確保
- ・介護サービスの質の向上
- ・職員の負担軽減
- ・ICT化の促進

課題2 施設老朽化への対応

目標1：施設改修計画の策定

内容：計画的な設備入れ替の検討を行う

- ・老朽化施設の建て替えへの検討
- ・予防保全と利用者の安全確保
- ・定期点検の継続

課題3 法人経営の安定化を図る

目標1：中長期計画の策定

内容：ワーキングチームを活用し中長期計画を策定する

- ・各事業目標の設定と達成を目指す
- ・コスト削減（法人全体での契約）
- ・事業再編の検討
- ・給与体系の見直し（コンサルティングの活用）

課題4 リスクを軽減しよう

目標1：誤薬ゼロ

内容：法人職員として決められた事は守る

- ・誰もが守れる対応策の策定
- ・ICT 導入の検討
- ・継続的な評価と確認

目標 2：虐待・身体拘束ゼロ

内容：法人職員として法令を遵守する

- ・定期的な検証と研修
- ・セルフコンディショニングの実践（自分を知りコントロールしよう）

目標 3：ハラスメントゼロ

内容：人権保護と職員の意識改革を図る

- ・構造の理解と防止（継続的な研修）
- ・見過ごさない、許さない職場体質へ
- ・カスタマーハラスメント対策の策定

法人としてのコンプライアンスの徹底

- ・研修会の実施と参加率向上を目指す
- ・法令遵守のみならず倫理観と公序良俗など社会的規範に従い、公正・公平に業務を行う
- ・法人職員として法人内の規則規程の周知に努める

関連事項

1. 無駄を無くそう
 - ・全員でコストカットに取り組む（本部だけが考えるのではなく全員で考えよう）
 - ・無駄を見つけ一人一人が実践
 - ・時間外勤務の抑制と削減
2. 働きやすい職場づくり
 - ・福利厚生の充実
 - ・明るい職場環境
3. 事業継続計画（BCP）
 - ・事業の理解と実践
 - ・訓練の実施
 - ・継続的な見直し

4. 主要事業の目標量

各施設（拠点）における目標事業量を次のとおりとする。

事業種別	定員 A	令和7年度目標量			令和6年度目標量		
		延利用数 /営業日数	平均 B	稼働率 B/A	延利用数 /営業日数	平均 B	稼働率 B/定員
特別養護老人ホーム美 雪 園	80人	28,616人 / 365日	78.40 人/日	98.0%	28,105人 / 365日	77.00 人/日	96.3%
特別養護老人ホームうかじ園	77人	27,740人 / 365日	76.00 人/日	98.7%	27,740人 / 365日	76.00 人/日	98.7%
特別養護老人ホーム寿和ホーム	30人	10,767人 / 365日	29.50 人/日	98.3%	10,768人 / 365日	29.50 人/日	98.3%
特別養護老人ホームあぶるま苑	50人	17,885人 / 365日	49.00 人/日	98.0%	17,885人 / 365日	49.00 人/日	98.0%
(特養 利用者計)	237人	85,008人 / 365日	232.90 人/日	98.3%	84,498人 / 365日	231.50 人/日	97.7%
美 雪 園 (短期入所)	18人	6,205人 / 365日	17.00 人/日	94.4%	6,205人 / 365日	17.00 人/日	94.4%
うかじ園 (短期入所・空床型)	13人 (空床型)	183人 / 365日	0.50 人/日	3.8%	237人 / 365日	0.65 人/日	0.5%
寿和ホーム (短期入所)	6人	1,825人 / 365日	5.00 人/日	83.3%	1,825人 / 365日	5.00 人/日	83.3%
あぶるま苑 (短期入所)	5人	1,460人 / 365日	4.00 人/日	80.0%	1,368人 / 365日	3.75 人/日	75.0%
(短期入所 利用者計)	42人	9,673人 / 365日	26.50 人/日	63.1%	9,635人 / 365日	26.40 人/日	62.9%
(特養+短期入所 利用者計)	279人	94,681人 / 365日	259.40 人/日	93.0%	94,133人 / 365日	257.90 人/日	92.4%
美雪園デイサービスセンター	25人	6,820人 / 310日	22.00 人/日	88.0%	6,820人 / 310日	22.00 人/日	88.0%
デイサービスセンターうかじ園	28人	7,130人 / 310日	23.00 人/日	82.1%	7,285人 / 310日	23.50 人/日	83.9%
デイサービスセンター入広瀬	18人	3,885人 / 259日	15.00 人/日	83.3%	4,180人 / 258日	16.20 人/日	90.0%
デイサービスセンターひまわり	30人	8,615人 / 362日	23.80 人/日	79.3%	8,507人 / 362日	23.50 人/日	78.3%
(デイサービス 利用者計)	101人	26,450人	83.80 人/日	83.0%	26,792人	85.20 人/日	84.4%
ヘルパーステーションコスモス		5,040人 / 246日	20.49 人/日	5.5件 職員 3.7人	6,427人 / 246日	26.13 人/日	5.2件 職員 5.0人
(訪問介護 利用者計)		5,040人	20.49 人/日	5.5人 職員 3.7人	6,427人	26.13 人/日	5.2人 職員 5.0人
ケアプランセンターうおぬま北		/0ヶ月	件/月	職員 0.0人	1,200件 /12ヶ月	100.0 件/月	33.3件 職員 3.0人
うおぬまケアセンター		3,468件 /12ヶ月	289.0 件/月	36.1件 職員 8.0人	2,934件 /12ヶ月	244.5 件/月	34.9件 職員 7.0人
魚沼市西部地域包括支援センター	(委託分)	1,140件 (216件 /12ヶ月)	95.0 (18.0 件/月)	19.0件 (3.6件 職員 5.0人)	1,068件 /12ヶ月	89.0 (0.0 件/月)	22.3件 (0.0件 職員 4.0人)
(居宅介護支援 利用件数計)		4,608件 /24ヶ月	384.0 件/月	55.1件 職員 13.0人	5,202件 /36ヶ月	433.5 件/月	90.5件 職員 14.0人

※ うかじ園短期入所は、令和6年1月1日より休止中、利用見込みは特養床利用（空床利用）分。

※ 居宅介護支援の介護予防の利用者（介護予防プラン受託件数は、1/2人換算）を含む。

※ 地域包括支援センターの介護予防の利用者は1/1換算。

5. 各拠点の要点

1) 施設介護サービス（特別養護老人ホーム）

老人ホームの中では、比較的安価に入居できる点が特徴であり、依然として入所希望者は高いニーズがある。家族介護力の低下や身寄り無しのケースに近い状況もあり適正に施設サービスを利用いただけるよう利用前には丁寧な説明を行う。

入所後については、本人及び家族の意向に出来るだけ添えるように、施設サービス計画に基づき利用者の立場に立ったサービス提供を行う。

健康管理や入退院及び感染症の対応、看取り介護を含め嘱託医との連携及び協力病院との連携に努める。

最後の時を迎えるにあたり、本人及び家族の意向に配慮し、できるだけ安らかに過ごせるよう配慮する。

2) 居宅介護サービス（短期入所生活介護・通所介護・訪問介護）

健康寿命は延びているとは言え、介護が必要となった場合には、家族介護力の低下及び核家族化により在宅で介護を受けて生活できる期間が極めて短くなってきている状況がある。施設入所を希望する利用者は依然高い状況であるが、在宅サービスを継続する利用者は減少傾向にある。職員確保も難しくなっている状況で、サービスの質の向上は必須であり信頼される事業所でなければならない。

短期入所事業は、市内事業所の減少もあり送迎範囲も広範囲となっている。事故の無いよう安全送迎に努める。また、機能訓練指導員がいる施設では、強みを生かしリハビリの充実を図る。

通所介護事業は、介護予防と自立支援に向けたリハビリテーション等のケアを提供し、在宅での生活が少しでも充実できるよう支援を行っていく。家族の介護負担軽減、社会的孤立感の解消も含め、サービスの質の向上に努めていく。

訪問介護事業は、市内事業所の減少に伴い他事業所と連携を取り在宅での生活を支えるべく事業を進めて行く。家族、ケアマネージャと連携を取り、必要な時に必要なサービスが提供できるよう努めていく。

3) 居宅介護支援（居宅介護支援事業所）

令和7年度からは、法人内二つの居宅介護支援事業所を統合し効率化を図る。サービス提供にあたっては、法令の遵守と共に各事業所及び関連機関と密なる連携を図り情報収集と利用者ニーズに合ったサービス提供を行う。

4) 魚沼市西部地域包括支援センター

市内西部地域（堀之内・広神 藪神地区）対象地区の住民の健康の保持及び生活の安定のために必要な援助を行う。その目的は3職種のチームアプローチによる「総合相談」「権利擁護」「地域の支援体制づくり」「介護要望に必要な援助」などを行い高齢者の保健医療の向上及び福祉の増進を包括的に支援していく。

5) その他の事業

魚沼市高齢者支援ハウスについては、経年劣化による設備の更新及び修繕について市と協議し随時入替を検討していく。また、指定管理者である美雪園職員の兼務により生活援助を行い、安心して暮らせるように事業を行っていく。

給食調理業務受託事業については、守門デイサービスセンター（指定管理者：魚沼市社会福祉協議会）に対して、あぶるま苑内の厨房にて調理した食事を提供している。今後も食中毒等事故の無いよう努めるとともに満足していただける食事の提供と、人員不足に対応するため、あぶるま苑を含めた完全調理済食材の利用について引き続き検討していく。

6. 固定資産の取得及び大規模修繕計画等

各施設における固定資産の取得及び大規模修繕等の事業は次のとおりとする。
(1件100万円以上の事業について記載。)

1) 美雪園 拠点区分

勘定科目	品名及び工事名	予算額	助成額他	備考
車輛運搬具	通所介護 送迎車両(更新)	5,160,000	0	リフト付き送迎車

2) うかじ園 拠点区分

勘定科目	品名及び工事名	予算額	助成額他	備考
大規模修繕	受電設備高圧ケーブル交換工事(更新)	1,670,000	0	
	新館GHP入替工事(更新)	5,000,000	0	
車輛運搬具	包括活動車	1,900,000	0	軽自動車

3) 寿和ホーム 拠点区分

勘定科目	品名及び工事名	予算額	助成額他	備考
器具及び備品	業務用水洗機(更新)	1,950,000	0	

4) あぶるま苑 拠点区分

勘定科目	品名及び工事名	予算額	助成額他	備考

5) ひまわり 拠点区分

勘定科目	品名及び工事名	予算額	助成額他	備考

7. 各事業、拠点区分の事業活動収支、及び職員配置数、人件費等予算額

各事業・拠点区分における事業活動収入、及び職種別職員の配置数、人件費等予算額は、次のとおりとする。（※人員欄は、実人員(主な配属先で計上)、()内は常勤換算した人数(予算計上数)

[魚沼福祉会 (合計)]			(単位; 人・千円)
事業・職種区分	令和7年度	令和6年度	比較
事業活動収入	1,619,220千円	1,627,900千円	△8,680千円
(1) 社会福祉事業	1,605,150千円	1,614,800千円	△9,650千円
(2) 公益事業	7,710千円	6,740千円	970千円
(3) 収益事業	6,360千円	6,360千円	0千円
人件費支出	1,128,010千円	1,146,620千円	△18,610千円
総人員(正職/臨職)	291人 (154.17 / 104.40)	289人 (158.43 / 93.97)	2人 (△4.26 / 10.44)
事業活動支出	1,562,480千円	1,578,830千円	△16,350千円
(1) 社会福祉事業	1,548,640千円	1,565,480千円	△16,840千円
(2) 公益事業	7,550千円	7,060千円	490千円
(3) 収益事業	6,290千円	6,290千円	0千円
事業活動資金収支差額	56,740千円	49,070千円	7,670千円
施設整備等収入	0千円	0千円	0千円
施設整備等支出	28,330千円	30,440千円	△2,110千円
施設整備等資金収支差額	△28,330千円	△30,440千円	2,110千円
その他の活動収入	9,580千円	11,980千円	△2,400千円
その他の活動支出	32,400千円	20,550千円	11,850千円
その他の活動資金収支差額	△22,820千円	△8,570千円	△14,250千円
予備費支出	15,680千円	15,790千円	△110千円
当期資金収支差額合計	△10,090千円	△5,730千円	△4,360千円
前期末支払資金残高	876,470千円	786,392千円	90,078千円
当期末支払資金残高	866,380千円	780,662千円	85,718千円

令和7年度は、特養部門については、空床が生じたあと次の利用者受入までに日数がかかることが顕著になることが見込まれる。短期入所・通所介護などの居宅サービスは、在宅高齢者が減少し、要介護度の軽度化が顕著になることが見込まれ、利用者数の減少につながっている。訪問介護については基幹事業の人員不足から再度人員を減じざるを得なくなっている。また、介護職員の不足からうかじ園短期入所事業の休止が解消できないこと、在宅老人の減少から居宅介護支援事業所を統合し介護支援専門員を減員するため、法人全体としては減収となる見込みである。

支出については、職員の人員確保が困難な中、外国人人材の導入を行い介護職員の強化を図っているが、定着までにはまだまだ時間がかかる見込みである。各拠点での人員配置を見直し、実人員による人件費を見積もったために人件費予算は大幅な減額となる。

また、各種メンテナンス費用が増大しているところに、経年による機器設備の更新を予定している。引き続き、経費の節減、事業活動支出の増加を抑え、収支差額の改善に努めるものの、人員の不足を補うための設備投資の検討は進めていく。